

Ⅲ. ベトナム国家大学ハノイ 人文社会科学大学への教員派遣事業

1. 派遣教員

派遣教員	鈴木 康史	奈良女子大学研究院人文科学系人間科学領域 准教授
------	-------	--------------------------

2. 派遣期間および現地での活動

11月27日（水）関空発ーハノイ着

11月28日（木）講義準備

11月29日（金）～12月1日（日）講義及び成績評価等

12月2日（月） ハノイ発ー関空着

3. 事業の概要と評価

3-1 シラバス

①近代日本の詩・童謡と文化

1. 日本における韻文の歴史
2. 明治の詩と童謡
3. 大正の詩と童謡
4. 雑誌『赤い鳥』と子ども文化
5. 三大童謡詩人 北原白秋、野口雨情、西条八十
6. 昭和の詩と童謡
7. 戦後詩と童謡 谷川俊太郎
8. 震災後の詩と文化 和合亮一

②戦後日本の若者文化と思想

9. 「戦後」社会と大衆文化
10. 日本社会とマンガ
11. 手塚治虫と傷つく身体
12. 藤子不二雄の世界
13. 漫画と若者のアイデンティティの構築
14. 高度成長とマンガ
15. まとめ

3-2 事業の概要と評価

11月28日、29日を使って、鈴木がシラバスの内容を講義した。30日は提出された課題による成績評価を行った。

講義自体は、私自身が4年目であるということで、非常にスムーズに行うことができたように思う。しかし、今回は学部生の授業であったため、日本語の理解力などの面から、授業には人文社会大学のザン先生、ハー先生にご出席いただき、同時通訳のような形で学生たちの理解を図った。そのため時間が足りず、用意したすべての項目を話すことはできなかった。

この事業も4年を経過して、ベトナムの学生たちのニーズはほぼ理解できたと思う。それは必ずしも、われわれが提供したいと考えている人文学、社会科学とかみ合うわけではなく、日本文化の紹介の方が受けが良かったりする。

しかし、今回、たまたま日程があったので、人文社会大学日本学科の卒業論文中間発表会を聞く機会を与えられた。そこで報告された研究は日本に持ってきてもレベルの高いものであった。この経験からは、われわれ日本人教員も単なる日本文化の紹介にとどまらないものを工夫して提供してゆくことも重要ではないかと思われる。来年度以降に生かしてゆきたい。

なお、授業の課題は以下のとおりであった。

授業内に、詩の朗読を行ってもらおう。さらに授業後、日本語で短歌か俳句を作って提出する。その他、授業を聞いて理解したこと、感想なども提出する。

参考資料

配布レジュメ

ベトナム国家大学ハノイ人文社会科学大学 2013年 集中講義

奈良女子大学文学部 鈴木康史

テーマ1 日本の詩、名文 ～音で聴く日本語、朗読する日本語、歌う日本語

さまざまな詩や文章を読んだり聞いたりして覚えてください

テーマ2 戦後マンガ文化論 ～手塚治虫、藤子不二雄を中心に

なぜ日本のマンガは「大人」の読み物になったのか？

11月28日 テーマ1 日本の詩・名文

①原発事故と詩 福島のパシ人、和合亮一(わごうりょういち)の詩と朗読

2011.3.11 東日本大震災と原発事故

福島市で被災 家族を避難させた後、一人福島に

Twitter のつぶやきが注目を集め、『詩の礫』に。

「放射能が降っています。静かな夜です。」

「福島をあきらめない」

「福島に生きる 福島を生きる」

「私は作品を修羅のように書きたいと思います」

現在日本で最も注目されている詩人

②日本の詩と名文 斎藤孝『声に出して読みたい日本語』ほかより

『万葉集』 『平家物語』 『百人一首』

鴨長明『方丈記』

松尾芭蕉『おくのほそ道』

小林一茶の俳句

正岡子規の俳句、短歌

夏目漱石『草枕』『我輩は猫である』

島崎藤村『初恋』

石川啄木『啄木歌集』『一握の砂』

宮沢賢治『風の又三郎』『アメニモマケズ』

萩原朔太郎『竹』

中原中也『サーカス』

三好達治『雪』

谷川俊太郎『生きる』
おまけ・・・早口言葉

③近代日本の童謡 大正時代を中心に

詩人 北原白秋 野口雨情 西條八十 作曲家 中山晋平

美しい日本語の響きと、日本語の抑揚に合わせたメロディ
大正期の児童雑誌『赤い鳥』などに発表され、日本人の愛唱歌になった

11月29日 テーマ2：戦後マンガ文化論

①この授業で明らかにすること：日本マンガはなぜ大人も読むのか？

日本のマンガは大人も読む

ほかのほとんどの国では、大人は読まない なぜ？

一般に、マンガとは?? = こども向け、明るく、楽しく、ハッピーエンド

主人公は「成長」しない

日本のマンガは = 深いテーマ 人生とは？ 家族とは？ **悲劇も**

友情と努力/挫折と成長/愛と憎しみ/生と死/悲しみと喜びを経て

主人公が「成長」する

②手塚治虫以前のアニメ・漫画

主人公は傷つかない身体、成長しない身体、生身の身体を持たない

「喜劇」「コメディ」「ギャグ」／「ヒーロー」による勧善懲悪

時間も流れない Timeless Wonderland

ディズニー映画など

③手塚治虫と「傷つく身体」 第二次世界大戦との関わり

手塚治虫が発見したものとは

「傷つく身体」 = 「生身の身体」 = 「成長する身体」

「生身なのに」「成長できない身体」

「生身ではないから」「成長できない身体」を描けば「悲劇」になる

手塚治虫は、戦争の体験から、本来楽しいはずのマンガの世界に**悲劇**を持ち込んだ

④手塚治虫以降の日本マンガ（以下の梶原、井上参照）

人が成長するとはどのような意味があるのか？というテーマ

傷つく身体、成長する身体、生身の身体で、それを描く

時間が流れ、成長する主人公 Bildungsroman building + roman

リアルな世界で人は悩み、苦しむ。それを乗り越えて成長する主人公を描く

ゲーテ（Goethe） ヴィルヘルムマイスターの修業時代

⑤藤子不二雄（ふじこふじお）とのび太の成長

手塚の弟子である藤子不二雄の『ドラえもん』

Timeless Wonderlandを描いているが、実は、傷つき成長するのび太も描いている

「さようならドラえもん」

⑥手塚の「傷つく身体」を受けついだのが 梶原一騎（かじわらいつき）

「生身の身体」が「傷つき」ながら「成長する」が、最後に倒れてしまう

「成長できない」悲劇

スポーツマンガに「死」が登場する

⑦スポーツ漫画を完成させたのが 井上雄彦（いのうえたけひこ）

「生身の身体」が「傷つき」ながら「成長する」物語 人は死なない

われわれの日常生活を描く 悲劇から離れる

『スラムダンク』『バカボン』『リアル』